

今日の旧約には、聖書朗読の感動的な話が出てきました。

この出来事は、イエス様が生まれる400年位前の事だろうと思われます。

イスラエルの国は紀元前1000年頃、ダビデ・ソロモンといった立派な王様が国を統一していましたが、ソロモンの子どもが王位に着くと、南北に分裂したあとで、北イスラエル王国というのが、イエス様の生まれる700年余り前に滅ぼされ、それから100年余り過ぎると、エルサレムを中心とした南ユダ王国も、東の国バビロニアに滅ぼされ、その国の首都バビロンというところで奴隷になったのです。

このことを「バビロン捕囚」と言いますが、その時から50年後に、捕囚だった南ユダ王国の人々は新しく興ったペルシャ帝国によって解放されました。解放されたこの人たちはユダ族の出身だったから北イスラエルに対抗して、南ユダ王国という国名を名乗っていましたが、国が滅ぼされて、捕囚の約50年間に自分たちのことをユダヤ人と呼ぶようになりました。そして、イスラエルへ帰ることが許されたのですが、荒れ果てたエルサレムへ帰って、国を復興しようという機運はなかなか生まれませんでした。

バビロンへ捕囚になったあと、解放後もそのままバビロンに留まる人や、世界各地の別の町に住む人々も出てきて、この頃からユダヤ人は、世界に離散していったのです。解放されてから100年以上過ぎて、やがて、昔、南ユダ王国の首都だったエルサレムに神殿を築こうという雰囲気が出てきて、エズラ記には神殿建築のことが書かれて、祭司エズラが登場します。また、街の住民を守るために城壁を再建するように、ペルシャの王様からユダヤの総督に任命されたネヘミヤが登場して、そのことは、ネヘミヤ記にそれぞれ書かれています。二人は同じ時代の人物です。

今日の所は、エルサレムの神殿と城壁が完成した時、エズラが人々を一箇所に集めて、彼は夜明けから、正午まで、モーセの律法の書をみんなに読んで聞かせました。読まれたのは、現在レビ記の中に入っている、お祭りの規則などの元のものだったのではないかと、言われています。エズラの朗読を通して、人々は、神様が先祖に約束されたとおりに、ご自分の民に、どれほど、いつくしみを示してくださったのか、理解したのでしょうか。神様の約束が成就した、と感動の涙を流していました。それに対して、総督のネヘミヤや祭司のエズラは「行って良い肉を食べ、甘い飲み物を飲みなさい。その備えのない者には、それを分けて与えてやりなさい。今日は、我らの主にささげられた聖なる日だ。悲しんではならない。主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である。」と言って、解放され、自由が与えられたことを大いに喜んで祝おうじゃないか、と呼びかけているのです。

この旧約の話は、イエス様が生まれる400年位前に起こった出来事でした。バビロンから解放されて、エルサレムに帰ってきた人々の生活は、実際には困難を極め、神殿の再建も思うようには進まない状況でした。そんな時に、今日の福音書の中でイエス様が読んだイザヤ書の巻物の著者は、それより何百年か前に活躍したイザヤとは別の人ですが、預言を始めて、人々に希望の光を指し示そうとしました。

神殿や城壁は、エズラやネヘミヤなどの指導者によって出来上がりましたが、その後も、この国は、エジプトやシリア、そして、イエス様の時代には、ローマ帝国に支配され、ユダヤの民衆は貧しい生活を強いられていました。

今日の福音書では、イエス様が安息日にナザレの会堂でイザヤ書を読まれたことが書かれていましたが、その当時、身体的な障害などで、社会の中に居場所がなくて、交わりを絶たれた人々や、イスラエルが独立国になることを願っている活動家も大勢いて、みんなこのイザヤ書の著者が語った、イザヤ書第61章の冒頭の部分、イエス様が読まれた、ルカ4章の18節に語られている、救い主メシアが登場するのを待ち望んでいたのです。おそらく、このイザヤ書の箇所を、イエス様の前にも、何人もの人がこれを読むたびに、救い主について解説をしていたことでしょう。

もう一度読んでみましょう。

『「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、／主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、／捕らわれている人に解放を、／目の見えない人に視力の回復を告げ、／圧迫されている人を自由にし、19:主の恵みの年を告げるためである。」』

ところが、イエス様は、これを読み終えると、この箇所についての解説をするのではなく、いきなり、

「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と宣言されたのです。

イエス様が読まれた内容は、皆さんお分かりでしょう。

主と言っているのは、もちろんイエス様のことではなく、天地を創造した神様、ヤーウェのことです。神様が私イエスに油を注いでくださった。だから、自分はキリスト、メシア、救い主だ、というわけです。その救い主である私は、奴隷を解放し、障害を持っている人の重荷を下ろす者である、と説明したことになるのです。

そして、最後に「主の恵みの年を告げるためである。」と言っています。これは、「ヨベルの年」と呼ばれるもので、今日の旧約で祭司のエズラが読んでいたのも、このあたりだろうと思います。

それは、50年に1回まわってくる年で、それまで、畑などの買い取ったものを、元の所有者に返したり、買い取った奴隷であれば自由な人間として解放する年のことです。この年が始まる時、雄羊の角笛を吹き鳴らすので、雄羊の角を意味する「ヨベル」という名前が採用されたようです。

不思議なことに、バビロンに捕囚になったユダヤ人たちは、49年間の奴隷生活の末に、50年目に解放されたのです。そして500年以上過ぎた時、イエス様は、いろんな束縛で苦しみ、メシアを待ち望んでいる人々に「ヨベルの年（主の恵みの年）」が、今日実現した、と宣言されました。

イエス様の活動というのは、国全体をローマ帝国から独立させる、ということではなく、社会のいろんな束縛で苦しんでいる一人ひとりの重荷を取り除いて、自由を与えることでした。重い病気にかかっている人を、それから解放したり、職業的に差別を受け、社会からのけ者にされているような人、たとえば徴税人のザアカイを社会の仲間に入れたりなどのことでした。そのような活動の最後が、悪魔の捕虜になっている人間たちを神様の側に取り戻すために、その身代金として、自分が十字架にかかったのだ、と教会は教えてきました。

これらの活動のことを、パウロは、今日の使徒書を通して、私たちひとりひとりを、キリストの体にとえて、「神は、見劣りのする部分をいっそう引き立たせて、体を組み立てられました。それで、分裂が起こらず、各部分が互いに配慮し合っています。一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。」と説明します。

この運動は、2000年前、イエス様がナザレの会堂で語られた時、それを聞いた人には実現、成就したのでしょう。そしてその感激は、それよりも400年前、エズラやネヘミヤなどの指導者が、人々の告知知らせたこととも似ていると思います。

しかし、私たちは、はたして解放されているでしょうか。

現在、私たちが取り組まなければならない問題はたくさんあります。特に今年話題になったのは、私たち多くの国民は、政治家や無責任なマスコミに振り回されて、いつの間にか、貧しい生活を強いられてきたことが明らかになったことです。12月初め、韓国の国民は、政府の横暴なやり方に対して立ち上がりましたが、わたしたちの国は、社会の矛盾に対して、なかなか声を上げようとしないう、支配されることにならされてしまっているのではないかと。ひとりひとりの国民が大切にされていないことを痛感しています。物価高に対して、生活するための十分な給料や年金ももらえないことに、もっと気づいて、人々の幸福のために何ができるか考えなければならないのです。

これらの現在抱えている諸問題から解放することがイエス様の教えであり聖書の教えなのです。そしてそれは、エジプトの大帝国から脱出して、自由を手に入れた、少数のイスラエル人のお話に根拠を置く、聖書の民の共通の信仰です。

3年ほど前に、私は年賀状に古いエジプトの伝説を書いたことがありますが、今もそれが大切な教えだと痛感しているんです。エジプトの伝説はこんな話です。私たちは死んだ時、問われることが二つある、という言い伝えが古代エジプトにはありました。死後の世界、天国への門の前で死者は二つの質問を受ける。①自分の人生に、喜びを見出せたか？②他人の人生に、喜びを与えられたか？

これは言い方を変えれば、私は普段の生活の中で、苦しみから解放されたか。今喜んでいるか。そして周りの人々も重荷を取ってあげて、喜びを与えているか。

そんなことを考えながら今年も歩んでゆきたいと思っています。